



# 9 一般社団 食育スタジオDreamy

## 食農体験プロジェクト

計画  
達成度  
100%

代表者：山下祐美  
構成人数2名  
活動歴5年  
主な活動地：沼津市大岡  
HP：<https://r.goope.jp/dreamy>  
Mail: syokuinochi77427@gmail.com



### 事業目的 食のプロセスに関わる様々な体験をすることで「食」の背景を知る

市内の農地が減り、農業を体験したことがない子どもが多い中、野菜を苗から収穫まで育てることで、鳥や虫などの天敵や予想外の気象災害等、自然の中で野菜を育てる難しさを経験する機会はとても貴重な体験である。

旬の野菜や郷土の気候に合った野菜の知識を深めたりすることで、農業や地産地消への関心や生産者への感謝の気持ちを育む。また、収穫直後の新鮮な食材を使用した調理実習で五感を刺激し、情緒豊かな子どもの成長に寄与する。さらに、子育て世代とシニア世代と一緒に事業に関わることで、地域が活性化し、市民の健康への意識が高まることが期待できる。

様々な体験を通し、食事をするときにただ単に食べ物を食べるということだけでなく、その食べ物の背景を感じながら、感謝の気持ちや食べ物を大切にするという「食」への意識を子どものときから育むことができる。

### 現状と目標 野菜栽培について新たな学びがあった

- ・生産者と参加者（消費者）をつなぎ、地産地消を推進する。
- ・感染リスクの少ない野外での作業で体を動かし、野菜を育てる楽しさを感じることができる。
- ・SNSを通し、大人数で集まることなく参加者同士の交流ができる。
- ・評価の指標として、事業開始時と終了時にアンケート調査を実施する。



### 活動と成果 参加者全員が感動！

#### ①農業体験

- 4月：土壌分析・土壌作り・農業体験参加者募集開始
- 5月：農業体験夏野菜チーム夏野菜の植え付け（参加家族9組）  
植え付け後の水やり追肥の指導、苗の生育状況の確認、グループLINE相談対応
- 5～8月：圃場管理、害虫駆除対策補助
- 8月：土壌分析・土壌作り・農業体験参加者募集開始
- 9月：農業体験夏野菜チーム冬野菜の植え付け（参加家族18組）  
植え付け後の水やり追肥の指導、苗の生育状況の確認、グループLINE相談対応
- 9～12月：圃場管理、害虫駆除対策補助

#### ②収穫体験

- 6～10月：野菜の収穫状況に合わせて随時SNS等で参加者募集
- 開催日：6/1・6/8・6/13・6/19・7/10・7/11・7/31・8/1・10/16（全10回）
- 参加人数：42名（15家族）

#### ③クッキング講座

- 6～12月：SNS等で参加者を募集し、収穫可能な野菜を使用し随時開催
- 開催日：6/29・7/2・8/30・9/19・9/20・9/23・9/25・9/26・10/2・10/4・10/10・10/18・11/15・11/23・12/4・12/5（全21回） 参加人数：53名（25組）



5月の夏野菜チーム定植後すぐに強風で苗が折れたり、枯れてしまい、再度苗を植え替えた参加者もいた。暑くなり伸びた葉が虫に食べられたり、鳥につつかれたり、また油断すると圃場は雑草だらけになってしまい、除草や水やりに参加者は熱心に通って来ていた。収穫期は猛暑が続き、8月圃場の終了時期は雨天続きで、それぞれの圃場の片付けは大変だった。参加者は、予想以上に野菜栽培が大変でうんざりされ、継続を希望されることはないだろうとスタッフは予想していたが、参加者全員が冬野菜の継続を希望したため、新規の参加者9組を含め、圃場の区画を18に増やし、9月に冬野菜チームをスタートした。定植後高温が続いたことにより、アブラムシが大発生し、発芽した種や定植した苗が食べられてしまい、種時きや定植をやり直ししなければならなかったり、害虫駆除に苦労したが、野菜の成長も早く、10月初旬には収穫が始まった。追肥や収穫のタイミングが難しいとの声があり、スタッフが圃場の見回りをしてその都度参加者へLINEを通し声掛けをした。同じ野菜でも圃場の場所により収穫時期や収穫量の違いがあった。

グループLINEでは、栽培中の剪定法や目かきの時期などの質問が投稿され、その都度対処法を紹介した。収穫期には参加者の野菜を収穫する楽しさや、収穫仕立ての美味しさに感動する声や、子どもが苦手だった野菜を食べられるようになったり、食卓で収穫した野菜を囲み家族の会話が弾む様子が次々とアップされた。コロナ禍で旅行やイベントが制限される中、畑仕事で無心になって体を動かすことができ嬉しいという声や、参加者が圃場へ通って来ることを楽しみにしている様子を見ることができ、スタッフの励みにもなった。収穫だけの農業体験でもじゅうぶん楽しむことができるが、種時きや定植をした野菜を育て、収穫して家族で味わうことに、参加者全員が感動している様子を見ることができ、この事業の意義を感じた。

### 振り返り課題 2022レンタル農園として継続

実際に圃場で野菜栽培をし、収穫できたことを、予想以上に参加者が感動し、子どもたちの嬉しそうな声や、笑顔を見ることができた。

コロナの感染状況に影響されることなく、野外での事業開催は可能であることを実感でき、農業体験は大成功だったと思う。

収穫体験とクッキング講座は、夏野菜は順調だったが、秋以降は昨年と比べ自家農場での野菜栽培が上手いかず、予想以上に収穫野菜の種類が少なかつたため、予定より開催回数が減ってしまい今後の課題となった。

補助金事業は終了したが、これまでの実績を活かし2022年もレンタル農園として事業を継続している。もっと多くの市民に周知したいが、市のHP内での募集はできず、まちづくりファンドのFacebookはフォロワーが少なく周知に繋がらないのがとても残念に思う。

